

タイトル：2023年度 教育セミナー（第19回）

日時：2023年9月21日（木）～24日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3階大会議室（303）

吉田風音（九州大学大学院）

私はこの中東☆イスラーム教育セミナーに、今回始めて参加させていただきました。今年度は完全に対面開催ということで、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所へ伺えること、楽しみにしていました。このような貴重な機会を設けていただき、本当にありがとうございます。私は、今回のセミナーでは研究発表・ポスター発表を行いませんでしたので、他大学の学生の皆様や先生方のご発表を聞いての感想とさせていただきます。

私は、今後高校の教職に就くことを志望していることもあり、研究の道を志している学生が中心となるだろう、このセミナーへの参加に対して、正直なところ少しだけ気後れしていました。実際に参加してみて、発表や情報交換会等を通じて、夢や大志を持って研究に臨んでいる学生や、進路に悩んでいる学生、私と同世代の様々な学生と話し、たくさんの刺激を受けて、セミナーに参加してよかったと心から思っています。

学外でのこうした研究発表の場に参加するのは初めてで、普段、私が触れる機会のないような分野の研究について知り、四日間、終始興味深く発表を聞かせていただきました。今回のセミナーに関しては、例年よりも歴史学系の学生が多く参加していたようで、初期十字軍に関わるシリアの歴史に関心を持っている私にとっては、私自身の研究内容と比較的近く、研究を進める上で参考にしたい発表ばかりでした。

他の学生の皆さんの質問・感想の中で、私が思いもよらない着眼点からの質問も多々あり、大変刺激になるとともに、私自身の不勉強さを痛感しました。個人的には、発表の合間の休憩時間に、学生同士で感想を言い合う中で、発表や質疑応答の内容についての理解を深めることができたことが、対面開催ならではの体験で、すごく嬉しかったです。

同世代の学生の発表はもちろん、セミナーに参加された先生方のご発表も、大変刺激になりました。特に、高校世界史の教科書における記述と、実際の史料にみえる記述との乖離についての、教職とも関わるお話を通して、歴史学を専攻する人間として、世界史という教科とより一層向き合い、考えていく必要があると強く感じました。

悩みながらも勉強に励み、成果を出している学生と直に接したことで、私自身も、もっと研究や為すべきことに励まなければならないと、背中を押される心地がしています。今回のセミナーで学んだこと・考えたことを持ち帰り、今後の学生生活や研究に活かして参ります。

改めて、今回このような貴重な場を用意していただき、本当にありがとうございました。